

科目名	<b>経済成長論</b>	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	<b>Economic growth theory</b>	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	フカサワ ヤスオ	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	<b>深澤 泰郎</b>	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日本の潜在成長率は1%未満に低下しています。決定的要因は人口動態ですが、その結果としての労働生産性の低迷が大きな影響を及ぼしています。日本経済の実態を理解しつつ経済成長のメカニズムを学びます。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本の実質成長率の低下の原因が明確に理解できる。 2. 全体が貧しくなる中で、個人として努力していくという覚悟が定まる。				
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、参考資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。				
授業計画	<b>(授業において配布された資料は、すべて試験の範囲に含まれる)</b>				
第1回	イントロダクション：現在の世界経済の外観、日本経済の現在の立ち位置、配布資料				
第2回	日本経済の長期トレンドと人口問題の確認 配布資料				
第3回	労働市場の長期モデル（1） 労働市場とは？ テキスト「マクロ経済学」第10章				
第4回	労働市場の長期モデル（2） 自然失業率 テキスト「マクロ経済学」第10章				
第5回	閉鎖経済の長期モデル（1） 成長理論と生産関数テキスト「マクロ経済学」第11章				
第6回	閉鎖経済の長期モデル（2） 成長会計の考え方テキスト「マクロ経済学」第11章				
第7回	財政の長期的課題（1） 財政赤字の実態 テキスト「マクロ経済学」第13章				
第8回	財政の長期的課題（2） ドーマーのモデル テキスト「マクロ経済学」第13章 配布資料				
第9回	中間テスト（持ち込み可）と解説				
第10回	財政の長期的課題（3） 人口減少と社会保障 テキスト「マクロ経済学」第13章 配布資料				
第11回	経済成長（1） ソローモデル テキスト「マクロ経済学」第11章（再度）				
第12回	経済成長（1） ソローモデル テキスト「マクロ経済学」第18章（P.664~682）				
第13回	経済成長（2） ソローモデル テキスト「マクロ経済学」第18章（P.664~682）				
第14回	経済成長（2） ソローモデル テキスト「マクロ経済学」第18章（P.683~703）（P.685~P.687は除く）				
第15回	経済成長（2） ソローモデル テキスト「マクロ経済学」第18章（P.683~703）（P.685~P.687は除く）				
第16回	定期試験（持ち込み不可）、期末テスト（持ち込み可）				
授業時間外の学習	テキストの該当箇所は事前に通読し、疑問点があれば質問すること（0.5~1時間）。 毎回ではないが、小テストを行うので、確認のための復習をすること（1時間）。				
履修条件 受講のルール	「マクロ経済学Ⅰ」、「マクロ経済学Ⅱ」の知識を前提に講義を行いますので、単位を取得済みであることが望ましい。教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、欠席した場合は研究室に取りに来て下さい。受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。				
テキスト	斎藤誠ほか3名「マクロ経済学（有斐閣、2016年）」				
参考文献・資料	深澤泰郎 日本経済と財政危機の本質シリーズ2、3R、8				

成績評価の方法	中間テスト (40%)、定期試験 (10%)、期末テスト (40%)、その他(10%) 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	受講することによって、全体的には決して良くない日本のマクロ経済見通しの中で、「個人として幸福になるために努力する」覚悟が定まると思います。